

ビジテリアン大祭

宮沢賢治

青空文庫

私は昨年九月四日、ニュウファウンドランド島の小さな山村、ヒルティで行われた、ビジテリアン大祭に、日本の信者一同を代表して列席して参りました。

全体、私たちビジテリアンというのは、ご存知の方も多いでしょうが、実は動物質のものを食べないという考かんがえのものものの団結でありまして、日本では菜食主義者と訳しますが主義者というよりは、も少し意味の強いことが多いのであります。菜食信者と訳したら、或あるは少し強すぎるかも知れませんが、主義者というよりは、よく実際に適かなっていると思います。もつともその中にもいろいろ派があります、まあその精神について大きくわけますと、同情派と

予防派との二つになります。

この名前は横からひやかしにつけたのですが、大へんうまく要領を云いあらわしていますから、かまわず私どもも使うのです。

同情派と云いますのは、私たちもその方でありますが、恰度ちようど

仏教の中でのように、あらゆる動物はみな生命を惜むおしこと、我々

と少しも変りはない、それを一人が生きるために、ほかの動物の

命を奪うばつて食べるそれも一日に一つどころではなく百や千のこと

もある、これを何とも思わないでいるのは全く我々の考が足らな

いので、よくよく喰たべられる方になって考えて見ると、とてもか

あいそうでそんなことはできないとこう云う思想なのであります。

ところが予防派の方は少しちがうのでありまして、これは実は病

気予防のために、なるべく動物質をたべないというのであります。
 則ち肉類や乳汁を、あんまりたくさんたべると、リウマチスや痛
 風や、悪性の腫^{しゅちよう}脹^{ちよう}や、いろいろいけない結果が起るから、そ
 の病気のいやなもの、又その病気の傾^{けいこう}向のあるものは、この団
 結の中に入るのであります。それですからこの派の人たちはバタ
 ーやチーズも豆^{まめ}からこしらえたり、又菜食病院というものを建て
 たり、いろいろなことをしています。

以上は、まあ、ビジテリアンをその精神から大きく二つにわけ
 たのでありますが、又一方これをその実行の方法から分類します
 と、三つになります。第一に、動物質のものは全く喰べてはいけ
 ないと、則ち獸^{けもの}や魚やすべて肉類はもちろん、ミルクや、またそ

れからこしらえたチーズやバター、お菓子かしの中なかでも鶏卵けいらんの入いつたカステラなど、一切いけないという考の人たち、日本ならばまあ、一寸ちよつぷお鯉このだしの入いつたものもいけないという考のであります。この方法は同情派にも予防派にもありますけれども大部分は予防派の人たちがやります。第二のは、チーズやバターやミルク、それから卵たまごなどならば、まあものの命をとるといふわけではないから、さし支つかえない、また大してからだに毒になるまいといふので、割合おんけん穏健おんけんな考であります。第三は私たちもこの中でありませんが、いくら物の命をとらない、自分ばかりさつぱりしていと云つたところで、実際にほかの動物が辛つらくては、何にもならない、結局はほかの動物がかあいそうだからたべないのだ、小さ

な小さなことまで、一一吟味^{ぎんみ}して大へんな手数をしたたり、ほかの人^{ひと}にまで迷惑^{めいわく}をかけたたり、そんなにまでしなくてもいい、もしたくさんのいのちの^{ため}為に、どうしても一つのいのちが入用なときは、仕方ないから泣きながらも食べていい、そのかわりもしその一人が自分になった場合でも敢て^{あえ}避^さけないところ云うのです。けれどもそんな非常の場合は、実に実に少いから、ふだんはもちろん、なるべく植物をとり、動物を殺さないようにしなければならぬ、くれぐれも自分一人気持をさつぱりすることにばかりかかわって、大切の精神を忘れてはいけな^こいと斯^こう云うのであります。

そこで、大体ビジテリアンというものの性質はおわかりでしょ

うから、これから昨年のもその大祭のときのもようをお話いたします。

私がニューファウンドランドの、トリニティの港に着きましたのは、ちようど恰度大祭の前々日でありました。事によると、間に合わないと思ったのが、うまいぐあい工合に参りましたので、大へんよろこびました。トルコからの六人の人たちと、船の中で知り合いになりました。その団長は、地学博士でした。大祭に参加後、すぐ六人ともカナダの北境を探検するという話でした。私たちは、船を下りると、すぐりよそ旅装を調べて、ヒルテイの村に出発したのであります。実は私は日本から出ました際には、ニューファウンドランドへさえ着いたら、たれ誰の眼めもみなそのヒルテイという村の方へ

向いてるだろう、世界中から集った旅人が、ぞろぞろそつちへ行くのだろうから、もうすぐ路みちなんかわかるだろうと思つて居おりました。ところが、船の中でこそ、遇ぐうぜん然トルコ人六人とも知り合あいになったようなもの、実際トリニテイの町に下りて見ると、どこにもそんなビラが張つてあるでもなし、ヒルテイという名を云う人も一人だつてあるでなし、実は私も少し意外に感じたので

〔以下原稿数枚なし〕

は町をはなれて、海岸の白い崖がけの上の小さなみちを歩きました、そらが曇くもつて居りましたので大西洋がうすくさびたブリキのように見え、秋風は白いなみがしらを起し、小さな漁船はたくさんな

らんで、その中を行くのでした。落葉松からまつの下枝したえだは、もう褐かつしよ色くに変わっていたのです。

トルコ人たちは、みちに出ている岩にかなづちをあてたり、がやがや話し合ったりして行きました。私はそのあとからひとり空か虚らのトランクを持って歩きました。一時間半ばかり行つたとき、私たちは海に沿つた一つの岬とうげの頂上に来ました。

「もうヒルテイの村が見える筈はずです。」団長の地学博士が私の前に来て、地図を見ながら英語で云いました。私たちは向うを注意してながめました。ひのきの一杯いっぱいにしげつている谷の底に、五つ六つ、白い壁かべが見えその谷には海が峽きょう湾わんのような風にまつ蒼さおに入り込こんでいました。

「あれがヒルテイの村でしょうか。」私は団長にたずねました。団長は、しきりに地図と眼の前の地形とくらべていました。しばらくたって眼鏡めがねをちよつと直しながら、

「そうです。あれがヒルテイの村です。私たちの教会は、多分あの右から三番目に見える平屋根の家でしょう。旗か何か立っているようです。あすここにデビスさんが、住んでいられるんですね。」

デビスというのは、ご存知の方もありませんが、私たちの派のまあ長老です、ビジテリアン月報の主筆で、今度の大祭では祭司长になった人であります。そこで、私たちは、俄にわかに元気がついて、まるで一息にその峠をかけ下りました。トルコ人たちは脚あしが長いし、背はいのう囊うを背負って、まるで磁じしやく石くに引かれた砂鉄とい

〔以下原稿数枚なし〕

そうにあたりりの風物をながめながら、三人や五人ずつ、ステツキをひいているのでした。婦人たちも大分ありました。又支那人かと思われる顔の黄いろな人とも会いました。私はじつとその顔を見ました。向うでも立ちどまってしまいました。けれどもその日はとうとう話しかけるでもなく、別れてしまいました。その人がやはりビジテリアンで、大祭に来たものなことは疑うたがいありませんでした。私たちは教会に來ました。教会は粗末そまつな漆喰造りしつくいづくで、ところどころ裂罅ひびわ割れていました。多分はデビスさんの自分の家だったのでしようが、ずいぶん大きいことは大きかったです。

旗や電燈が、ひのきの枝ややどり木などと、上手に取り合せられて装飾そうしよくされ、まだ七八人の人が、せつせと明後日あさっての仕度したくをして居りました。

私たちは教会の玄関げんかんに立って、ベルを押おしました。

すぐ赭あから顔の白髪はくはつの元氣のよさそうなおじいさんが、かなづちを持ってよこの室へやから顔「以下原稿数枚なし」

が、桃ももいろの紙に刷られた小さなパンフレットを、十枚ばかり持って入って来ました。

「お早うございます。なあに却かえって御愛嬌ごあいきようですよ。」

「お早うございます。どうか一枚拝見。」

私はパンフレットを手にとりました。それは今もっています
が斯こう書いてあつたのです。

「◎へんきよう偏狭非文明的なるビジテリアンを排はいす。

マルサスの人口論は、今日定性的には誰も疑うものがない。その要領は人類の居住すべき世界の土地は一定である、又その食料品は等差級数的に増加するだけである、然しかるに人口は等比級数的に多くなる。則すなわち人類の食料はだんだん不足になる。人類の食料と云えば蓋けだし動物植物鉱物の三種を出いでない。そのうち鉱物では水と食塩とだけである。残りは植物と動物とが約半々を占しめる。ところが茲こゝにごく偏狭な陰いん気な考の人間の一群があつて、動物は可哀かあいそうだからたべてはならんといひ、世界中に

これを強しいようとする。これがビジテリアンである。この主張は、実に、人類の食物の半分を奪おうと企くてるものである。換か言んげんすれば、この主張者たちは、世界人類の半分、則ち十億人を饑き餓がによつて殺そうと計画するものではないか。今日いづれの国の法律を以もつてしても、殺人罪は一番重ばつく罰せられる。間接ではあるけれども、ビジテリアンたちも又この罪を免まぬかれない。近き将来、各国から委員が集つて充じゆう分ぶん商議の上嚴重に処罰されるのはわかり切つたことである。又この事實は、ビジテリアンたちの主張が、畢ひつきよう竟じかどう自家撞着ちやくに終ることを示す。則ちビジテリアンは動物を愛するが故ゆえに動物を食べないのである。何が故にその為に食物を得ないで死亡する、十億の人類を

見殺しにするのであるか。人類も又動物ではないか。」

「こいつは面白おもしろい。実に名論だ。文章も実に珍ちんむるい無類だ。実に

面白い。」トルコの地学博士はその肥ふとった顔を、まるで張り裂さけ

るようにして笑いました。みんなも笑いました。とにかくみんな

寝巻ねまきをぬいで、下に降りて、口を漱すすいだり顔を洗ったりしました。

それから私たちは、簡単に朝飯を済まして、式が九時から始まるのでしたから、しばらくバルコンでやすんで待っていました。

不意に教会の近くから、のろしが一発昇のぼりました。そらがまっ

青に晴れて、一枚の瑠璃るりのように見えました。その冴すみきつたよ

く磨みがかれた青ぞらで、まっ白なけむりがパツとたち、それから黄

いろな長いけむりがうねうね下って来ました。それはたしかに、

日本でやる下り竜りゆうの仕掛け花火しかです。そこで私ははつと気がつき
ました。こののろしは陳氏ちんがあげているのだ、陳氏が支那式黄竜
の仕掛け花火をやったのだと気がつきましたので、大悦おおよろこびで
みんなにも説明しました。

その時又、今朝のすてきなラツパの声が遠くから響ひびいて参りま
した。

「来た来た。さあどんな顔ぶれだか、一つ見てやろうじやないか
。」地学博士を先登せんとうに、私たちは、どやどや、玄関へ降りて行
きました。たちまち一台の大きな赤い自働車がやって来ました。
それには白い字でシカゴ畜産ちくさん組合と書いてありました。六人の、
髪かみをまるで逆立てた人たちが、シャツだけになって、顔をまっ赤

にして、何か叫びながら鼠色や茶いろのビラを撒いて行きま
した。その鼠いろのを私は一枚手にとりました。それには赤い字
で斯う書いてありました。

「◎偏狭非学術的なるビジテリアンを排せ。

ビジテリアンの主張は全然誤謬である。今この陰気な非学術
的思想を動物心理学的に批判して見よう。

ビジテリアンたちは動物が可哀そうだから食べないという。

動物が可哀そうだということがどうしてわかるか。ただこつち
が可哀そうだと思っただけである。全体豚などが死というような
高等な観念を持っているものではない。あれはただ腹が空つた、
かぶらの茎、噛みつく、うまい、厭きた、ねむり、起きる、鼻

がつまる、ぐうと鳴らす、腹がへつた、むぎぬか 麦糠、たべる、うまい、つかれた、ねむる、というぐあい 工合に一つずつの小さな現在が続いて居るだけである。殺す前にキーキー叫ぶのは、それは引っぱられたり、たたかれたりするからだ、その証しょうこ 拠には、殺すつもりでなしに、何かけいらん 鶏卵の三十も少し遠くの方でちっそう 馳走をするつもりで、豚の足になわ 縄をつけて、ひっぱって見るがいいやっぱり豚はキーキー云う。こんな訳だから、ほんとうに豚を可哀そうと思うなら、そうつとおこ 怒らせないように、うまいものをたべさせて置いて、にわかな に熱湯にでもたたき込んでしまいがいい、豚は大悦びだ、くるつと毛までむ 剥けてしまう。われわれの組合では、この方法によって、たくさん 沢山の豚を悦ばせている。

ビジテリアンたちは、それを知らない。自分が死ぬのがいやだから、ほかの動物もみんなそうだろうと思うのだ。あんまり子供らしい考である。」

私は無理に笑おうと思いましたが何だか笑えませんでした。地学博士も黄いろなパンフレットを讀んでしまつて少し変な顔をしていました。私たちは目を見合せました。それからだまつてお互いのパンフレットをとりかえました。黄色なパンフレットには斯う書いてあつたのです。

「◎偏狭非学術的なビジテリアンを排せ。

ビジテリアンの主張は全然誤謬ごびゆうである。今これを生物分類学的に簡単に批判して見よう。ビジテリアンたちは、動物が可哀

そうだという、一体どこ迄^{まで}が動物でどこからが植物であるか、牛やアミーバーは動物だからかあいそう、バクテリアは植物だから大丈夫^{だいじょうぶ}というのであるか。バクテリアを植物だ、アミーバーを動物だとするのは、ただ研究の便宜^{べんぎ}上、勝手に名をつけたものである。動物には意識があつて食うのは気の毒だが、植物にはないから差し支^{つか}えないというのか。なるほど植物には意識がないようにも見える。けれどもないかどうかわからない、あるようだと思つて見ると又^{また}実にあるようである。元来生物界は、一つの連続である、動物に考があれば、植物にもきつとそれがある。ビジテリアン諸君、植物をたべることもやめ給^{たま}え。諸君は餓死する。又世界中にもそれを宣伝したまえ。二十億人

がみんな死ぬ。大へんさっぱりして諸君の御希望に叶うかなだろう。そして、そのあとで動物や植物が、お互同志食ったり食われたりしていたら、丁度いいではないか。」

私はなおさら変な気がしました。

もう一枚茶いろのもあったのです。

「ごらんになったらとりかえましようか。」

私は隣となりの人に云いました。

「ええ、」その人はあわただしく茶いろのパンフレットをよこしました。私も私のをやったのです。それには黒くこう書いてありました。

「◎偏狭非学術的なるビジテリアンを排せ。」

ビジテリアンの主張は全然誤謬である、今これを比較解剖学ひかくかいぼうの立場からごく通俗的に説明しよう。人類は動物学上肉食に適するよう^{ひかくかいぼう}にできている。歯の形状から見てもわかる。草食そうじよくじ獣ゆうにある臼歯きゆうしもあれば肉食類の犬歯もある。肉食をしているのが人類には一番自然である。そう出来てるのだから仕方ない。それをどう斯う云うのは恩恵おんけい深き自然に対して正しく叛旗はんきをひるがえすものである。よしたまえ、ビジテリアン諸君、あんまり陰気なおまけに子供くさい考は。」

「ふん。今度のパンフレットはどれもかなりしつかりしてるね。いかにも誰もたれやりそうな議論だ。しかしどっかやっぱり調子が変だね。」地学博士が少し顔色が青ざめて斯う云いました。

「調子が変わなばかりじゃない、議論がみんな都合のいいようになり仕組んであるよ。どうせ畜産組合の宣伝書だ。」と一人のトルコ人が云いました。

そのとき又向うからラツパが鳴って来ました。ガソリンの音も聞えます。正直を云いますと私もこの時は少し胸がどきどきしました。さっそく又一台の赤自動車がやって来て小さな白い紙を撒いて行つたのです。

そのパンフレットを私たちはせわしく読みました。それには赤い字で斯こう書いてあつたのです。

「ビジテリアン諸氏に寄す。

諸君がどんなに頑張がんばつて、馬鈴薯ばれいしょとキャベジ、メリケン粉

ぐらいを食つていようと、海岸ではあんまりたくさん魚がとれて困る。折角せつかく死んでも、それを食べて呉くれる人もなし、可哀そうに、魚はみんなシヤベルで釜かまになげ込まれ、煮えるとすぐわれて、締木しめぎにかけて圧搾あつさくされる。釜に残った油の分は魚油です。今は一缶かん十セントです。鰯いわしなら一缶がまあざつと七百疋びき分です。締木にかけた方は魚粕うおかすです、一キログラム六セントです、一キログラムは鰯ならまあ五百疋です。みなさん海岸へ行つてめまいをしないけません。また農場へ行つてめまいをしてもいけません、なぜなら、その魚粕をつかうとキヤベジでも麦でもずいぶんよく穫とれます。おまけにキヤベジ一つこさえるには、百疋からの青虫を除とらなければならぬので

すぜ。それからみなさんこの町で何か煮たものをめしあがった
 り、お湯をお使いになるときに、めまいを起さないように願
 います。この町のガスはご存知の通り、石炭でなしに、魚油を乾
 んりゆう溜（りゅう）してつくっているのですから。いずれ又お目にかかつて
 詳くわしく申しあげましょう。」

この宣伝書を読んではまったときは、白状しますが、私たちは
 しばらくしんとしてしまつたのです。どうも理論上この反対者の
 主張が勝っているように思われたのであります。それとて、私も、
 又トルコから来たその六人の信者たちも、ビジテリアンをやめよ
 うとか、全く向うの主張に賛成だとかいうのでもなく、ただ何と
 なくこの大祭のはじまりに、けちをつけられたのが不愉快ふゆかいだつた

のであります。余興として笑つてしまふには、あんまり意地が悪かつたのであります。

ところが、又もやのろしが教会の方であがりました。まつ青なそらで、白いけむりがパツと開き、それからトントンと音が聞えました。けむりの中から出て来たのは、今度こそ全く支那風の五色の蓮華れんげの花でした。なるほどやっぱり陳氏だ、お経きょうにある青色青光、黄色黄光、赤色赤光、白色白光をやつたんだなど、私はつくづく感心してそれを見上げました。全くその蓮華のはなびらは、ニュウフアウンドランド島、ヒルテイ村ビジテリアン大祭の、新鮮な朝のそらを、かすかに光つて舞まい降りて来るのでした。

それから教会の方で、賑にぎやかなバンドが始まりました。それが

風下でしたから、手にとるように聞えました。それがいかにも本
 式なのです。私たちは、はじめはこれはよほど費用をかけて大陸
 から頼たのんで来たんだなと思いましたが、あとで聞きましたら、あ
 の有名なスナイダーが私たちの仲間だったんです。スナイダーは、
 自分のバンドもつと（尤もその半数は、みんなビジテリアンだったので
 す、）を、そっくりつれてやはり一昨日おととい、ここへ着いたので
 です。とにかく、式の始まるまでは、まだ一時間もありませんたけ
 れども、斯こうにぎやかにやられては、とてもじつとして居られま
 せん、私たちは、大急ぎで二階に帰って、礼装れいそうをしたのです。
 トルコトルコ 土耳古人たちは、みんなまつ赤なターバンと帯とをかけ、殊ことに地
 学博士はあちこちからの勲章くんしょうやメダルを、その漆黒しつこくの上着

にかけましたので全くまばゆい位でした。私は三越でこさえた白い麻あさのフロックコートを着ましたが、これは勿論もちろん、私の好みで作法ではありません。けれども元来きものというものは、東洋風に寒さをしのぐという考かんがえも勿論ですが、一方また、カーライルの云う通り、装飾そうしよくが第一なので結局その人にあつた相当のものをきちんとつけているのが一等ですから、私は一向何とも思いませんでした。實際きものは自分のためでなく他人の為ためです。自分には自分の着ているものが全体見えはしませんからほかの人がそれを見て、さっぱりした気持ちがあればいいのであります。

さて私たちは宿を出ました。すると式の時間を待ち兼ねたのは、あながち私たちだけではありませんでした。教会へ行く途とちゆう中、

あつちの小路からも、こつちの広場からも、三人四人ずついろいろな礼装をした人たちに、私たちは会いました。燕尾服えんびふくもあれば厚い粗羅紗そらしゃを着た農夫もあり、綬じゆをかけた人もあれば、スラツと瘠やせた若い軍医もありました。すべてこれらは、私たちの兄弟でありましたから、もう私たちは国と階級、職業とその名とをとわず、ただ一つの大きなビジテリアンの同朋どうぼうとして、「お早う、」と挨拶あいさつし「おめでとう、」と答えたのです。そして私たちは、いつかぞろぞろ列になっていました。列になって教会の門を入ったのです。一昨日おととい別段気にもとめなかつた、小さなその門は、赤いいろの藻類そうるいと、暗緑の柵つがとで飾かざられて、すっかり立派りっぺいに変わっていました。門をはいると、すぐ受付があつて私たちはみんな求

められて会員証を示しました。これはいかにも 偏^{へんき}狭^きなやり方のようにどなたもお考えでしょうが、実際今朝の反対宣伝のような訳で、どんなものがまぎれ込んで来て、何をするかもわからなかったのですから、全く仕方なかったのでありましょう。

式場は、教会の広庭に、大きな曲馬用の天幕^{テント}を張って、テニスコートなどもそのまま中に取り込んでいたようでした。とてもその人数の入るような広間は、恐^{おそ}らくニユウファウンドランド全島にもなかつたでしょう。

もう気の早い信徒たちが二百人ぐらい席について待っていました。笑い声が波のように聞えました。やっぱり今朝のパンフレットの話などが多かつたのでしよう。

その式場を覆うおほ灰色の帆布はんぷは、黒い縦もみの枝えだで縦横に区切られ、所々には黄や橙だいだいの石楠花しやくなげの花をはさんでありました。何せそう云ういい天気で、帆布が半透明はんとうめいに光っているのですから、実にその調和のいいこと、もうこここそやがて完成さるべき、世界ビジテリアン大会堂の、陶製とうせいの大天井だいてんじょうかと思われたのであります。向うには勿論花で飾られた高い祭壇さいだんが設けられています。そのとき、私は又、あの狼煙のろしの音を聞きました。はっと気がついて、私は急いでその音の方教会の裏手へ出て行って見ました。やっぱり陳氏でした。陳氏は小さな支那の子供の狼煙の助手も二人も連れて来ているのでした。そして三人とも、今日はすっかり支那服でした。私は支那服の立派さを、この朝ぐらい感じたこと

はありません。陳氏はすっかり黒の支度したくをして、袖口そでぐちと沓くつだけ、まばゆいくらいまっ白しろに、髪は昨日きのうの通りでしたが、支那の勳章を一つつけていました。

それから助手の子供らは、まるで絵にある唐児からこです。あたまをまん中だけ残して、くりくり剃そつて、恭うやうやしく両手こまねを拱こまねいて、陳氏のうしろに立たつていました。陳氏は私の行いつたのを見ると本当に嬉うれしかったと見えて、いきなり手を出して、

「おめでとう。お早はやう。いいお天気です。天の幸、君にあらんことを。」とつづけざまにべらべら挨拶あいさつしました。

「お早はやう。」私たちは手てを握にぎりました。二人の子供の助手も、両手りょうてを拱こまねいたまま私わたしに一いち揖ゆうしました。私も全く嬉うれしかったです。

ニューフアウンドランド島の青ぞらの下で、この町ていちよう 重ちゆうな東洋風の礼を受けたのです。

陳氏は云いました。

「さあ、もう一発やりますよ。あとは式がすんでからです。今度のは、私の郷国の名前では、柳りゆう雲うん飛ひ鳥ちようといひます。柳はサリックス、バビロニカ、です。飛鳥スワロウは燕つばめです。日本でも、柳と燕つばめを云いますか。」

「云います。そしてよく覚えませんが、たしか私の方にも、その狼煙はあつた筈はずですよ。いや花火はなびだつたかな。それとも柳にけまらだつたかな。」

「日本の花火の名所は、東京両国橋ですね。」

「ええそのほか岩国とか石の巻とか、あちこちにもあります。」
「なるほど。さあ、支度。」陳氏は二人の子供に向きました。一人の子は恭しくバスケットから、狼煙玉を持ち出しました。陳氏はそれを受けとってよく調べてから、

「よろしい。口火。」と云いました。も一人の子は、もう手に口火を持って待っていました。陳氏はそれを受けとりました。はじめの子は、シユツとマツチをすりました。陳氏はそれに口火をあてて、急いでのろし筒づつに投げ込みました。しばらくたつて、「ドーン」けむりと一いっしょ緒しよに、さっきの玉は、汽車ぐらいの速うさで青ぞらにのぼって行きました。二人の子供も、恭しく腕うでを拱こいで、それを見上げていました。たちまち空で白いけむりが起り、ポン

ポンと音が下つて来それから青い柳のけむりが垂れ、その間を燕の形の黒いものが、ぐるぐる縫ぬつて進みました。

「さあ式場へ参りましょう。お前たち此処ここで番をしておいで。」
陳氏は英語で云つて、それから私らは、その二人の子供らの敬礼をうしろに式場の天幕テントへ帰りました。

もう式の始まるに、六分しかありませんでした。天幕の入口で、私たちはプログラムを受け取りました。それには表に

ビジテリアン大祭次第

挙祭挨拶

論難反駁はんぱく

祭歌合唱

きとう
祈禱

閉式挨拶

会食

会員紹介

余興

以上

と刷つてあり私たちがそれを受け取った時丁度九時五分前でした。
 式場の中はぎつしりでした。それに人数もよく調べてあつたと
 見えて、空いた椅子いすとてもあんまりなく、勿論腰もちろんこしかけないで立
 っている人などは一人もありませんでした。みんなで五百人はあ
 ったでしょう。その中には婦人たちも三分の一はあつたでしょう。
 いろいろな服装や色しきさい彩いろが、処ところどころ々に配置された橙や青の盛もりば

花なと入りまじり、秋の空気はすきとおって水のように、信者たちも又またさつきとは打って変つて、しいんとして式の始まるのを待つていました。

アーチになつた祭壇のすぐ下には、スナイダーを楽長とするオーケストラバンドが、半円陣はんえんじんを採り、その左には唱歌隊の席がありました。唱歌隊の中にはカナダのグロツコも居たようですが、どの人かわかりませんでした。

ところが祭壇の下オーケストラバンドの右側に、「異教徒席」「異派席」という二つの陶製の標ひょう札さつが出て、どちらにも二十人ばかりの礼装をした人たちが座つて居りました。中には今朝の自働車で見たような人も大分ありました。

私もそこで陳氏と並んで一番うしろに席をとりました。陳氏はしきりに向うの異教徒席や異派席とプログラムとを比較ひかくしながらよほど気にかかる模様でした。とうとう、そつと私にささやきましました。

「このプログラムの論難というのは向うのあの連中がやるのですね。」

「きつとそうでしょうね。」

「どうです、異派席の連中は、私たちの仲間にくらべては少し風采うさいでも何でも見劣りみおとするようですね。」

私も笑いました。

「どうもそうのようですよ。」

陳氏が又云いました。

「けれども又異教席のやつらと、異派席の連中とくらべて見たんじや又ずつと違つてますね。異教席のやつらときたら、實際どうも醜悪しゆうあくですね。」

「全くです。」私はとうとう吹き出しました。實際異教席の連中ときたらどれもみんな醜悪しゆうあくだったので。

俄にわかに澄すみ切つた電鈴でんれいの音が式場一杯いっばい鳴りわたりました。拍手はくしゅが嵐あらしのように起りました。

白髯はくぜん赭顔しやがんのデビス長老が、質素な黒のガウンを着て、祭壇さいだん

壇だんに立つたのです。そして何か云おうとしたようでしたが、あんまり嬉しかったと見えて、もうなんにも云えず、ただおろおろ

と泣いてしまいました。信者たちはまるで熱狂^{ねつきよう}して、歓呼拍手しました。デビス長老は、手を大きく振^ふつて又何か云おうとしましたが、今度も声が咽喉^{のど}につまって、まるで変な音になってしまい、とうとう又泣いてしまったのです。

みんなは又熱狂的に拍手しました。長老はやつと気を取り直したらしく、大きく手を三度ふつて、何か叫^{さけ}びかけましたけれども、今度だつてやつぱりその通り、崩^{くず}れるように泣いてしまったのです。祭司次長、ウイリアム・タツピングという人で、爪哇^{ジャワ}の宣教師なそうですが、せいの高い立派なじいさんでした、が見兼ねて出て行って、祭司長にならんで立ちました。式場はしいんと静まりました。

「諸君、祭司長は、ただいままで只今既に、無言を以て百千万言を披瀝ひれきした。是れ、こげにも尊き祭始の宣言である。然ししかながら、未だ祭司長の云わざる処もある。これ実に祭司長が述べんと欲するものの中の糟粕そうはくである。これをしも、祭司次長が諸君に告げんと欲して、敢て咎めらるべきでない。諸君、吾人は内外多数の迫害はくがいに耐えて、今日迄までビジテリアン同情派の主張を維持して来た。然もこれ未だ社会的に無力なる、各個人個人に於てである。然るに今日は既にビジテリアン同情派の堅き結束かたけつそくを見、その光輝ある八面体の結晶けつしょうとも云うべきビジテリアン大祭を、この清澄せいちようなるニューファウンドランド島、九月の気圏きけんの底に於て析出せきしゅつした。殊ことにこの大祭に於て、多少の愉快ゆかいなる刺戟しげきを吾人が所有するとい

うことは、もつとも最天意のある所である。多少の愉快なる刺戟とは何であるか、これプログラム中にある異教及異派およびの諸氏の論難である。これら是等諸氏はみな信者諸氏と同じく、各自の主義主張のために、世界各地より集り来つた真理の友である。恐らく諸氏の論難は、最痛つうれつしんらつ烈辛辣なものであろう。その愈々いよいよえいり鋭利なるほど、愈々公明に我等はこれに答えんと欲する。これ大祭開式の辞、最後糟粕の部分である。祭司次長ウイリアム・タツピング祭司長ヘンリー・デビスに代つてこれを述べる。」

拍手は天幕テントもひるがえるばかり、この間デビスはただよろよると感かんげき激して頭をふるばかりでありました。

その拍手の中でデビス長老は祭司次長に連れられて壇を下り透と

うめい
 明な電鈴が式場一杯に鳴りました。祭司次長が又祭壇に上つて壇の隅の椅子にかけ、それから一寸立って異教徒席の方を軽くさし招きました。

異教徒席の中からせいの高い肥つたフロツクの人が出て卓子の前に立ち一寸会釈してそれからきぱきぱした口調で斯う述べました。

「私はビジテリアン諸氏の主張に対して二個条の疑問がある。

第一植物性食品の消化率が動物性食品に比して著しく小さいこと。尤も動物性食品には含水炭素が殆んどないからこれは当然植物から採らなければならぬ。然しながらも蛋白質と脂肪とについて考えるならば何といつても植物性のものは消化が悪い。

単に分析表を見て牛肉と落花生と營養価が同じだと云つて牛肉の代りにそつくり豆まめを喰たべるといふわけにはいかない。人によつては植物蛋白を殆んど消化しないじやないかと思われることもあるのだ。ビジテリアン諸氏はこれらのことは充じゆうぶん分ぶんご承知であるが尚なほこれを以て多くの病弱者や老衰者並に嬰兒にまで及ぼさうとするのはどう云うものであろうか。

第二は植物性食品はどう考えても動物性食品より美味おいしくない。これは何としても否定することができない。元來食事はただ營養をとる為のものではなく又一種の享きやう樂らくである。享樂と云うよりは欠くべからざる精神爽快剤レフレッシユメントである。労働に疲れ種々の患かん難なんに包まれて意氣銷沈いきしょうちんした時には或あるは小さな歌謡かようを口吟くちげんむ、談

笑する音楽を聴くき観劇や小遠足にも出ることが大へん効果あるように食事も又一の心身回復剤である。この快樂を菜食ならば著しく減ずると思う。殊に愉快に食べたものならば實際消化もいいのだ。これをビジテリアン諸氏はどうお考かんがえであるか伺うかがいたい。」

大へん温和おとなしい論旨ろんしでしたので私たちは實際本気に拍手しました。すると私たちの席から三人ばかり祭司次長の方へ手をあげて立った人がありました。祭司次長は一番前の老人を招きました。その人は白髯しろひげでやはり牧師らしい黒い服装ふくそうをしていましたが壇のほに昇のぼつて重い調子で答えたのでした。

「只ただいま今の御質疑に答えたいと存じます。」

植物性の脂肪や蛋白質の消化があまりよくないことは明かであ

ります。さればといつて甚不良はなはだなものではなく、ただ動物質の食品に比して幾分劣いくぶんるといふのであります。全然植物性蛋白質や脂肪を消化しないという人はまあありますまい、あるとすればその人は又動物性の蛋白質や脂肪も消化しないのです。さてどう云うわけで植物性のものが消化がよくないかと云えば蛋白質の方はどうもやっぱりその蛋白質分子の構造によるようでありませんが脂肪の消化率の少いのはそれが多く纖維素せんいその細胞壁さいぼうへきに包まれている関係のようであります。どちらも次第しだいに菜食になれて参りますと消化もだんだん良くなるのであります。色々実験の成績もございませうから後でご覧を願います。又病弱者老衰者嬰兒等の中には全く菜食ではいけない人もありませう、私どもの派ではそれらに対し

てまで菜食を強いようと致す^{いた}のではありません。ただなるべく動物^{たが}互^あに相喰^いむのは決して当然のことでない何とかしてそうでなくしたいという位の意味であります。尤も老人病弱者にても若^もし肉食を嫌^{きら}うものがあればこれに適するような消化のいい食品をつくる事に就^つては私共只今充分努力を致して居るのであります。仮令^{たとえ}ば蛋白質をば少しく分解して割合簡単な形の消化し易^{やす}いものを作る等であります。

第二に食事は一つの享樂である菜食によつてその多分は奪^{うば}われるところにはやはり肉食者よりのお考であります。なるほど普通混食^{ふつう}をしているときは野菜は肉類より美味しくないのですが、けれどももし肉類を食べるときその動物の苦痛を考えるならば到底^{とうてい}

美味しくはなくなるのであります。従つて無理に食べても消化も悪いのであります。勿論^{もちろん}菜食を一年以上もしますなれば仲々肉類は不愉快な臭^{におい}や何かありまして好ましくないのであります。元来食物の味というものはこれは他の感覚と同じく対象よりはその感官自身の精粗^{せいそ}によるものであります、精粗というよりは善悪によるものであります、よい感官はよいものを感じ悪い感官はいいものも悪く感ずるのであります。同じ水を呑^のんでも徳のある人とならない人とは大へんにちがって感じます。パンと塩と水とをたべている修道院の聖者たちにはパンの中の糊精^{こせい}や蛋白質^{たんぱく}酵素^{こうそ}単糖類脂肪などみな微妙^{びみょう}な味覚となつて感ぜられるのであります。もしパンがライ麦のならばライ麦のいい所を感じて喜びます。こ

れらは感官が静寂せいじやくになつてゐるからです。水を呑んでも石灰の多い水、炭酸の入つた水、冷たい水、又川の柔らかな水やわみなし
ずかにそれを享樂することができるのであります。これらは感官
が澄すんで静まつてゐるからです。ところが感官が荒すさんで来ると
どこ迄まででも限りなく粗あらく悪わるくなつて行きます。まあ大抵たいていパンの
本当の味などはわからなくなつて非常に多くの調味料を用いたり
します。則ち享樂すなわは必らず肉食にばかりあるのではない。寧ろ清
らかな透明な限りのない愉快と安静とが菜食にあるということを
申しあげるのであります。「老人は会釈して壇を下り拍手は天幕テント
もひるがえるようでした。祭司次長は立つて異教席の方を見まし
た。異教席から瘠やせた顔色の悪いドイツ刈がりの男が立ちました。

祭司次長は軽く会釈しました。その人も答礼して壇に上ったのです。その人は大へん皮肉な目付きをして式場全体をきろきろ見下してから云いました。

「今朝私どもがみなさんにさしあげて置いた五六枚のパンフレットはどなたも大抵お読み下すつた事と思う。私はたしかに評判の通りシカゴ畜産組合ちくさんの理事で又屠畜会社またとちくの技師です。ところが正直のところシカゴ畜産組合がこのビジテリアン大祭を決して苦にするわけではない。何となれば只今前論者の云われたようなトラピスト風の人間というものは今日全人類の一万分一もあるもんじやない。やっぱりあたり前の人間には肉類は食料として滋養じようも多く美味である。ビジテリアン諸氏が折角せっかく肉食を實行し又宣伝す

るのを見た処ところで感服はしても容易まに真似まねはしない。則ち肉類の需
 要が減くずるものでもなし又私たちの組合がこわれたり会社が破産
 したりするものではない。だから一向反対宣伝も要いらなければこ
 の軽業かるわざテントの中に入って異教席いこうせきというこの光栄ある場所に私
 が数時間窮屈きゆうくつをする必要もない。然しながら実は私は六月か
 らこちらへ避暑ひしよに来て居おりました。そしてこの大祭にぶつつかつ
 たのですから職業柄がら私の方ではほんの余興よきょうのつもりでしたが少し
 邪魔じやまを入れて見ようかと本社へ云いつてやりましたら社長や何かみ
 な大へん面白おもしろがって賛成して運動費などもよこし慰勞いろう旁々かたがた技
 師も五人寄越よこしました。そこで私たちは大急ぎで銘々めいめい一つずつ
 パンフレットも作り自動車などまで雇やとつてそれを撒まきちらしまし

たが実は、なあに、一向あなた方が葉つ葉や何かばかりお上がりになろうと痛くもかゆくもないのです。然しまあやりかけた事です。それからこれからも一度あのパンフレットを銘々一人ずつご説明して苦しいご返答を伺おうと思います。実は私の方でもあの通り速記者もたのんであります、ご答弁は私の方の機関雑誌畜産^の之友に載せますからご承知を願います。で私のおたずね致したいことはパンフレットにもありました通り動物がかあいそうだからたばないとあなた方は仰^おつしやるが動物というものは一種の器械です。消化吸収^{はいせつ}排泄^{はいせつ}循環^{じゆんかん}環^{かん}生^{せい}殖^{しよく}と斯^こう云うことをやる器械です。死ぬのが恐^{こわ}いとか明日病気になって困るとか誰^{たれ}それと絶交しようとかそんな面^{めんどう}倒^{どう}なことを考えては居りません。動物の神経だな

んというものはただ本能と衝動しやうどうのためにあるです。神経なん
 というのはほんの少ししか働きません。その証拠しやうこにはご覧な
 い鶏にわとりでは強制肥育ということをやると、鶏の咽喉のどにゴム管をあてて
 食物をぐんぐん押し込んでやる。ふだんの五倍も十倍も押し込む、
 それでちゃんと肥ふとるのです、面白い位ふと肥ふとるのです。又犬の胃液の
 分泌ぶんびつや何かの工合ぐあいを見るには犬の胸を切つて胃の後部を露出ろしゅつ
 して幽門ゆうもんの所を腸と離はなしてゴム管に結ぶそして食物をやると、ど
 うです犬は食べると思ひますか食べないと思ひますか。あつ、ど
 うかしましたか。」

實際どうかしたのでした。あんまり話がひどかつた為ために婦人の
 中で四五人卒倒者があり他の婦人たちも大抵たいてい歯を食いしばつて

泣いたり耳をふさいで縮まったりしていたのです。式場は俄にわかに大騒おさわぎになりシカゴの畜産技師も祭壇さいだんの上で困って立っていません。正気を失った人たちはみんなの手で私たちのそばを通つて外に担かつぎ出され職業の医者な人たちは十二三人も立って出て行きました。しばらくたつて式場はしいんとなりました。婦人たちはみんなひどく激げつ昂こうしていましたが何分相手が異教の論難者でしたので卑ひき怯ように思われぬ為ために誰も異議を述べませんでした。シカゴの技師ははんけちで叮てい寧ねいに口を拭ぬぐつてから又云いました。「なるほど実にビジテリアン諸氏の動物に対する同情は大きなものであります。もう少し言辞に気をつけて申し上げます。ええ、犬はそれを食べます。ぐんぐん喰べます。お判わかりですか。又家畜を

去勢します。則ち生殖に対する焦燥しょうそうや何かの為に費される勢エ

ネルギー

力を保存するようにします。さあ、家畜は肥りますよ、全く動物は一つの器械でその脚あしを疾はやくするには走らせる、肥らせるには食べさせる、卵をとるにはつるませる、乳汁をとるには子を近くに置いて子に吞ませないようにする、どうしても勝手次第なものです。決して心配はありません。まだまだ述べたいのですが又卒倒されると困りますからここまでいたに致して置きます。」

その人は壇を下りました。拍手はくしゅと一処に六七人の人が私ども

の方から立ちましたが祭司次長が割合前の方のモオニングの若い人をさしまねきました。その人は落ち着いた風で少し微笑わらいながら演説しました。

「只ただいま今のご質問はいかにももつとも尤であります。多少御実験などもお話になりましたが実は遺憾いかなが乍らそれはみな実験になつて居りません。

動物は衝動と本能ばかりだと仰つしやいましたがまあそうして置きます。その本能や衝動が生きたいということいっぱいで一杯です。それを殺すのはいけないとこれだけでお答には充じゅうぶん分ぶんでありましかす。然しかしながら更さらに詳しいことは動物心理学の沢山たくさんの実験がこれを提供致すだろうと思ひます。又実は動物は本能と衝動ばかりではないのであります。今朝のパンフレットで見ましても生物は一つの大きな連続であると申されました。人間の心もちがだんだん人間に近いものから遠いものに行われて居ります。人間の苦し

いことは感覺のあるものはやっぱりみんな苦しい人間の悲しいこ
 とは強い弱いの違いはあつてもやっぱりどの動物も悲しいのです。
 仲々あのパンフレットにある豚ぶたのように愉快ゆかいには行かないのであ
 ります。飼かいいぬ犬が主人の少年の病死の時その墓を離れず食物もと
 らずとうとう餓死がしした有名な例、鹿しかや猿さるの子が殺されたときそれ
 を慕したつて親もわざと殺されることなど誰たれでも知っています。馬が
 何年もその主人を覚えていて偶たまに会ったとき涙なみだを流したりするの
 です。前論者の、ビジテリアンは人間の感情を以て強て動物を律
 しようとするといふのに対して、私は実に反対者たちは動物が人
 間と少しばかり形が違っているのに眼を欺あざむかれてその本心から起
 つて来る哀憐あいれんの感情をなくしているとご忠告申し上げたいので

にちがいありますまい。地球上の人類の食物の半分は動物で半分は植物です。そのうち動物を喰^たべないじや食物が半分になる。たださえ食物が足りなくて戦争だのいろいろ騷^{そうどう}動が起つてるのに更にそれを半分に縮減しようというのはどんなほかに立派な理くつがあつても正気の沙汰^{さた}と思われない。人間の半分十億人が食物がなくて死んでしまふ、死ぬ前にはいろいろ大騒ぎが起るその時ビジテリアンたちはどうします。自分たちの起した戦争の中へはいつてわれらの敵国を打ち亡^{ほろ}ぼせと云つて鉄^{てつ}砲^{ぽう}や剣を持つて突^とつ貫^つしますか。それともああこんな筈^{はず}じゃなかつた神よと云つてみんな一^{いっしよ}緒^{しよ}にナイヤガラかどこかへ飛び込みますか。そんなことをしたつて追いつきません。いや、それよりもこんなことにな

るのはどこの国の政治家でもすぐわかる、これはいかんと云うわけでお気の毒ながら諸君をみんな終身懲ちようえき役にしちまいます。まさか死刑しけいにはなりませんまいが終身懲役だつてそんないいもんじやありませんよ。どうです。今のうち懺悔ざんげしてやめてしまつては

「

拍手も笑声も起りました。私たちの方から若い背広の青年が立つて行きました。

「あの人は私は知ってますよ。ニユウヨウクで二三遍話べんしたんです。大学生です。」

その青年は少し激昂げっこうした風で演説し始めました。

「ご質問に対してできるだけ簡単にお答えしようと思ひます。」

人類の食料は動物と植物と約半々だ。そのうち動物を食べない
 じや食料が半分に減る。いかにもご尤なお考ではありますが大分
 乱暴な処もある様であります。動物と植物と半々だ、これがまず
 いけません。半々というのは何が半々ですか。多分は目方でお測
 りになるおつもりか知れませんが目方で比較ひかくなさるのは大へんご
 損です。食物の中で消化される分の熱量でもご比較になったら
 割合正確だろうと存じます。そう云うふうにしますと一般に動物
 質の方が消化率も大きいのでありますからよほどお得になります。
 お得にはなりませんがとても半々なんというわけには参りま
 すまい。こんな珍めずらしい議論の必要が従来あんまりありませんで
 したので恐おそらくこの計算はまだ誰たれも致しますまいが計算法だけ申

して上げて置きましょう。どうぞシカゴ畜産組合の事務所でゆつくり御計算を願います。すなわ即ち世界中の小麦と大麦米や燕麦オートカぶら燕麥蕪菁や甘キ藍ヤベシあらゆる食品の産額を発見して先ずま第一にその中から各々家畜の喰べる分をさし引きます。その際あんまりびつくりなさいませんように。次にその残りの各々からたんぱくしつしぼうがんすいたんそ蛋白質脂肪含水炭素の可消化量を計算してそれから各のおのおの発する熱量を計算して合計します。四千三百兆大カロリーとか何とか大体出て参りましょう。今度は牛羊、豚、馬、くじら鶏鯨という工合に今の通りやります。合計二千三百兆大カロリーとか何とか出て来ましょう。両方合せてそれをぎつと二十億で割って三百六十五で割って營養研究所の方にも見てお貰もらいなさい。計算がちがっているかどうか多分ご返事な

さるでしよう。

さて、ところが只今までの議論は一向私には何でもないのでありまして第一のご質問の答弁の要点はこの次です。則ち論難者^{すなわ}は、そのうち動物を食べないじや食料が半分に減ずるといふこいつです。冗談じやありませんぜ。一体その動物は何を食つて生きていますか。空気や岩石や水を食べているのじやないのです。牛や馬や羊は燕麦^{オート}や牧草をたべる。その為^{ため}に作つた南^{かぼちや}瓜や蕪菁もたべる。ごらんなさい。人間が自分のたべる穀物や野菜の代りに家畜の喰べるものを作っているのです。牛一頭を養うには八エーカーの牧草地が要^いります。そこに一番計算の早い小麦を作つて見ましようか。十人の人の一年の食^{しよくりよう}糧が毎年とれます。牛ならどう

です。一年の間に肥ふとる分左様百六十キログラムの牛肉で十人の人が一年生きていられますか。一人一日五十グラムですよ。親指三本の大きさですよ。腹へが空りはしませんか。

よくおわかりにならないようですがもつと手短かに云いますともし人間が自然と相談して牛肉や豚肉の代りに何か損にならないものをよこして呉くれと云えば今よりもつとたくさん人間が生きて行かれる位多くの喰くべものを向うではよこすと斯こう云うことです。但ただしこれは海産物と廃はいぶつ物によつて養う分の家畜は論外であります。然しながらそれを計算に入れても又また大丈夫だいじょうぶです。家畜だつてみんな喰べるものばかりでなく羊のように毛を貰うもの馬や牛のように労働をして貰うものいろいろあります。

次に食料が半分になつちや人間も半分になる、いかにも面白
いですが仲々その食料が半分にならない。減るところか事による
と少し増えるかも知れません。ですから大丈夫戦争も起らなけれ
ば無期徒刑をご心配して下さらなくても大丈夫です。却かえつて菜食
はみんなの心を平和にし互たがいに正しく愛し合うことができるのです。
多くの宗教で肉食を禁ずることが大切な儀式ぎしきにはつきものになつ
ているのでわかりましょう。戦争どこじやない菜食はあなた方
にも永遠の平和を齎もたらしてせつかく避暑ひしよに来ていながら自動車まで
雇やとつて変な宣伝をやったり大祭へ踏ふみ込んで来ていやな事を云つ
て婦人たちを卒倒させたりしなくてもいいようになります。又我
々だつて無期徒刑じやない、人類の仲間からと哺ほにゆう乳動物組合、

鳥類連盟、魚類事務所などからまで 勲章くんしょうや感謝状を沢山贈られる訳です。どうです。おわかりになつたらあなたもビジテリアンにおなりなさい。」

すると前の論士が立ちあがりました。大へん悔悟かいごしたような顔はしていましたが何だかどこか噴ふき出したいのを堪こらえていたようにも見えませんでした。しょんぼり壇だんに登つて来て

「悔悟します。今日から私もビジテリアンになります。」と云いつて今の青年の手をとつたのでした。みんなは実にひどく拍手しました。二人は連れ立って私たちの方へ下り技師もその空いた席こしへ腰こしかけて肩かたですうすう息をしていました。ところが勿論もちろんこの事の為に異教席の憤懣ふんまんはひどいものでした。一人のやっぱり技師

らしい男がずいぶん粗暴そぼうな態度で壇のぼに昇りました。

「諸君、私の疑問に答えたまえ。」

動物と植物との間には確たる境界がない。パンフレットにも書いて置いた通りそれは人類の勝手に設けた分類に過ぎない。動物がかあいそうならいつの間にか植物もかあいそうになる筈だ。動物の中の原生動物と植物の中の細菌さいきん類とは殆んど相密接せるものである。又動物の中にだってヒドラや珊瑚類さんごのように植物に似たやつもあれば植物の中にだって食虫植物もある、睡眠すいみんを摂る植物もある、睡る植物ねむなどは每晚邪魔じゃまして睡らせないと枯かれてしまう、食虫植物には小鳥を捕とるのもあり人間を殺すやつさえあるぞ。殊ことにバクテリアなどは先頃せんころまで度々たびたび分類学者が動物の中

へ入れたんだ。今はまあ植物の中へ入れてあるがそれはほんのはずみなのだ。そんな曖昧あいまいな動物かも知れないものは勿論仁慈じんじに富めるビジテリアン諸氏は食べたり殺したりしないだろう。ところがどうだ諸君諸君が一寸菜ちよつとつ葉へ酢すをかけてたべる、そのとき諸君の胃袋いぶくろに入つて死んでしまうバクテリアの数は百億や二百億じゃ利きけやしない。諸君が一寸葡萄ぶどうをたべるその一房ふさにいくらの細菌や酵母こうぼがついているか、もつと早いとこ諸君が町の空気を吸う一回に多いときなら一万ぐらいの細菌が殺される。そんな工合ぐあいで毎日生きていながら私はビジテリアンですから牛肉はたべません、なんて、牛肉はいくら喰べたつて一つの命の百分の一にもならないのだ、偽善ぎぜんと云おうか無智と云おうかとても話になら

ない。本とうに動物が可あいそうなら植物を喰べたり殺したりするのよもたま廃し給え。動物と植物とを殺すのをやめるためにまず水と食塩のだけ呑み給え。水はごくいい湧わきみず水にかぎる、それも新鮮な処ところにかぎる、すこし置いたんじやもうバクテリアが入るからね、空気は高山や森のだけ吸い給え、町のはだめだ。さあ諸君みんなどこかしんとした山の中へ行つていい空気といひ水と岩塩でもたべながらこのビジテリアン大祭をやるようにし給え。ここの空気は吸つちやいけないよ。吸つちやいけないよ。」

拍手は起り、笑声も起りましたが多くの人はだまって考えていました。その男はもう大得意でチラツとさつき懺悔ざんげしてビジテリアンになった友人の方を見て自分の席へ帰りました。すると私の

愕おどろいたことはこの時まで腕うでを拱こまねいてじつと座すわっていた陳氏ちんがいきなり立つて行つたことでした。支那服しなで祭壇しなに立つてはじめて私の顔を見て一寸かすかに会釈えしやくしました。それから落ち着いて流りゆうちよう暢はんぱくな英語で反駁演説はんぱくをはじめたのです。

「只ただいま今ろんしのご論旨は大へん面白いので私も早速空気を吸うのをやめたいと思いましたがその前に一寸一言ご返事をしたいと存じます。どうぞその間空気を吸うことをお許し下さい。

さて只今のご論旨ではビジテリアンたるものすべからく無菌の水と岩石ぐらいを喰べて海抜かいぼつ二千尺以上ぐらいの高い処ところに生活すべしというのでありましたが、なるほど私共の中には一酸化炭素と水とから砂糖を合成する事をしきりに研究している人もあり

ます。けれども茲こゝではまず生物連続が面白かつたようですからそれを色々応用して見ます。則ち人類から他の哺乳類鳥類はちゆう爬虫類魚類それから節足動物とか軟なんたい体動物とか乃至ないし原生動物それから一転して植物、の細菌類、それから多たさいぼう細胞の羊齒類しだ顕花植物と斯こう連続しているからもし動物がかあいそうなら生物みんな可哀かあいそうになれ、顕花植物なども食べても切つてもいかんというのですが、連続をしているものはまだいろいろあります。仮令たとえば人間の一生は連続している、嬰兒期えいじ幼児期少年少女期青年処女期壮年期老年期とまあ斯うでしょう、ところが実はこれは便宜上べんぎ勝手に分類したので実は連続しているはつきりした堺さかいはない、ですから、若もし四十になる人が代議士に出るならば必ず生れたばかりの嬰兒

も代議士を志願してフロックコートを着て政見を発表したり燕えんび尾服ふくを着て交際したりしなければいけない、又小学校の一年生にエービーシーを教えるなら大学校でもなぜ文学より見たる理論化学とか、相対性学説の難点とかそんなことばかりやってエービーシーを教えないか、と斯う云うことになります。或あるは他ほかの例を以てするならば元來變態心理と正常な心理とは連続的でありますから人類すべからふうてんは須く瘋癲病院を解放するか或はみんな瘋癲病院に入らなければいけないと斯うなるのであります。この変てこな議論が一見菜食にだけ適用するように思われるのはそれは思う人がまだこの問題を真剣に考え眞実に実行しなかつた証しやうこ拠こであります。斯んなことはよくあるのです。

いくら連続していてもその 両端りょうたんでは大分ちがつています。

太陽スペクトルの七色をごらん下さい。これなどは両端に赤すみれと堇すみれとがありまん中に黄があります。ちがつていますからどうも仕方ないのです。植物に対してだつてそれをあわれみたましく思うことは勿論です。印度インドの聖者たちは實際ゆえ故なく草を伐り花をふむことも戒いましめました。然しかしながらこれは牛を殺すのと大へんな距離きよりがある。それは常識でわかります。人間から身体の構造が遠ざかるに従つてだんだん意識が薄うすくなるかどうかそれは少しもわかりませんがとにかくわれわれは植物を食べるときそんなにひどく煩は悶もんしません。そこはそれ相応にうまくできているのであります。

バクテリアの事が大へんやかましいようでしたが一体バクテリア

がそこにあるのを殺すというようなことは馬を殺すというようなのと非常なちがいです。バクテリアは次から次と分裂し死滅し
まるで速かに速かに変化してるのです。それを殺すと云ったところ
で馬を殺すというようのは大分ちがいます。又バクテリアの
意識だつてよくはわかりませんがとにかく私共が生れつきバクテ
リヤについては殺すとかかあいそうだとかあんまりひどく考えな
い。それでいいのです。又仕方ないのです。但しこれも人類の文
化が進み人類の感情が進んだときどう変わるかそれはわかりません。
印度の聖者たちは濾さない水は呑みません。普通の布の水濾しで
は原生動物は通りますまいがバクテリアは通りましょう。まあこ
れらについてはいくら理論上何と云われても私たちにそう思えな

いとお答え致すいたより仕方ありません。やがて理論的にも又その通り証明されるにちがいありません。私の国の孟メンシアス子と云う人は徳の高い人は家畜かちくの殺される処又料理される処を見ないと云いました。ごく穩健おんけんな考であります。自然はそんなおとしあなみたいなことはしませんから。私共は私共に具そなわつた感官の状態私共をめぐつた条件に於ておい菜食をしたいと斯こう云うのであります。ここに於て私は敢てあえ高山に遁にげません。「陳氏は嵐あらしのような拍手はくしゅと一いっしょ緒に私の処へ歸つて来ました。私が陳氏に立つて敬意を示している間に演壇にはもう次の論士が立っていました。

「諸君、しずかにし給え。まだそんなよろこぶには早い。なぜならビジテリアン諸君の主張は比較解剖学ひかくかいぼうの見地からして正に

根底から顛覆するからである。見給え諸君の歯は何枚あります。三十二枚、そうです。でその中四枚が門歯四枚が犬歯それから残りが臼歯と智歯です。でそんなら門歯は何のため、門歯は食物を噛み取る為臼歯は何のため植物を擦り砕くため、犬歯はそんなら何のためこれは肉を裂くためです。これでお判りでしょう。臼歯は草食動物にあり犬歯は肉食類にある。人類に混食が一番適當なことはこれで見てもわかるのです。則ち人類は混食しているのが一番自然なのです。ですから我々は肉食をやめるなんて考えてはいけません。」

ずいぶんみんな堪えたのでしたがあんまりその人の身振りが滑稽でおまけにいかにも小学校の二年生に教えるように云うもん

ですからとうとうみんなどつと吹き出しました。私共の席から一人がすぐ出て行きました。

「只今の比較解剖学からのご説はどうも腑ふに落ちないのであります。まず第一に人類の歯に混食が丁度適当だというのにいろいろ議論も起りましようがまあこれは大体その通りとしていかがです、その次に、人類に混食が一番自然だから菜食してはいかんとするのは。

自然だからその通りでいいということとはよく云いますがこれは実はいいことも悪いこともあります。たとえば我々は畑をつくります。そしてある目的の作物を育てるのでありますがこの際一番自然なことは畑いっばい一杯草が生えて作物が負けてしまうことです。

これは一番自然です。前論士がもし農場を経営なすつた際には參觀いたださして戴ききたい。又人間には盗ぬすむというような考かんがえがあります。これは極きわめて自然のことでもあります。そんならそのままでもいいではないか。と斯うなります。又異教派の方にも大分諸方から鉄道などでお出いでになつた方もありますが鉄道で一番自然なこと則ちなるべく人力を加えないようにしますならば衝しょうと突つつや脱線や人を轢ひいたりするなどがいいようであります。そんならそれでいいではないか。ポイントマンだのタブレットだの面めんど倒臭うくさいことやめてしまえと斯う云うことになります。がどなたもご異議はありませんか。「斯う云つてその人はさつさつと席もどに戻もどつてしまいました。すると異教席からすぐ又一人立ちました。

「私は実は宣伝書にも云つて置いた通り 充じゅうぶん分ぶん 詳しく論じよう
 と思つたがさつきからのくしゃくしゃしたつまらない議論で頭が
 痛くなつたからほんの一言申し上げる、魚などは諸君が喰たべない
 たつて死ぬ、鰯いわしなら人間に食われるか鯨くじらに吞のまれるかどつちかだ。
 つぐみなら人に食われるか鷹たかにとられるかどつちかだ。そのと
 き鰯もつぐみもまつ黒な鯨やくちばしの尖とがつたキスも出来ないよ
 うな鷹に食べられるよりも仁慈あるビジテリアン諸氏なみだに泪をほろ
 ほろそそがれて喰べられた方がいいと云わないだろうか。それか
 ら今度は菜食だからつて一向安心にならない。農業の方では害虫
 の学問があつて薬をかけたなり焼いたり潰つぶしたりして虫を殺すこと
 を考えている。百ひやくしやう姓せいはみんなそれをやる。鯨を食べるならば

一疋びきを一万人でも食べられ、又その為に百万疋の鰯を助けることになるのだが甘藍キャベジを一つたべるとその為に青虫を百疋も殺していることになる。まるで諸君の考と反対のことばかり行われてい
るのです。いかがです。」

すぐ又一人立ちました。

「私はただ一分でお答えする。第一に魚がどんなに死ぬからってそれが私たちの必ずそれを喰べる理由にはならない。又私たちが魚をたべたからって魚が喜ぶかどうかそんなこともわからない。どうせ何かに殺されるだろうからってこつちが殺してやろうと云う訳には参りません。人間が魚をとらなければ海が魚で埋うまってしまうという勘かんじよう定じようさえあるがそんなめこの勘定で往いくもんじ

やない。結局こんな間接のことまで論じていたんじやきりがない、ただわれわれはまつすぐにどうもいけないと思うことをしないで、ただ。野菜も又犠牲ぎせいを払はらうというがそれはわれわれはよく知つてゐる。だから物を浪費ろうひしないことは大切なことなのだ。但し穀作きよくたや何かならばそんなにひどく虫を殺したりもしないのだ。極きよくた端んな例でだけ比較をすればいくらでもこんな変な議論は立つのです。結局我々はどうしても正しいと思うことをするだけなのだ。

拍手が起りました。その人は壇を下りました。

異教徒席の中から赭あかい髪かみを立てた肥ふとった丈たけの高い人が東洋風おおもたに形容どはつしましたら正まに怒髪天どはつを衝つくという風で大股おおもたに祭壇に上つ

て行きました。私たちは寛大かんだいに拍手しました。

祭司が一人出てその人と並ならんで紹介しました。

「このお方は神学博士ヘルシウス・マットン博士でありましてカナダ大学の教授であります。この度はシカゴ畜産組合の顧問こもんとして本大祭に御出席を得只今より我々の主張の不備の点を御指摘ごしてき下さる次第であります。一寸ちよつと紹介申しあげます。」とこう云うのであります。私たちは寛大に拍手しました。

マットン博士はしずかにフラスコから水を呑み肩かたをぶるぶるとゆすり腹を抱かかえそれから極きわめて徐おもむろに述べ始めました。

「ビジテリアン同情派諸君。本日はこの光彩ある大祭に出席の榮を得ましたことは私の眞実光榮とする処ところであります。」

就てはこれより約五分間私の奉ずる神学の立場より諸氏の信条を厳正に批判して見たいと思うのであります。然るに私の奉ずる神学とは然く狭隘なるものではない。私の奉ずる神学はただ二言にして尽す。ただ一なるまことの神はいまし給う、それから神の撰理ははかるべからずと斯うである。これに賛せざる諸君よ、諸君は尚かの中世の煩瑣哲学の残骸を以てこの明るく楽しく流動止まざる一千九百二十年代の人心に臨まんとするのであるか。今日宗教の最大要件は簡潔である。吾人の哲学はこの二語を以て既に千六百万人の世界各地に散在する信徒を得た。否、凡そ神を信ずる者にしてこの二語を奉ぜざるものありや、細部の諍論は暫らく措け、凡そ何人か神を信ずるものにしてこの二語を否定

するものありや。「咆哮ほうこうし終つてマツトン博士は卓を打ち式場を見廻みまわしました。満場森しんとして声もなかったのです。博士は続けました。

「讚たたうべきかな神よ。神はまことにして変り給わない、神はすべてを創つくり給うた。美しき自然よ。風は不断のオルガンを弾じ雲はトマトの如ごとく又馬鈴薯ばれいしょの如くである。路みちのかたわらなる草花は或あるいは赤く或は白い。金剛石こんごうせきは硬かたく滑かつせき石は軟やわらかである。牧場は緑に海は青い。その牧場にはうるわしき牛佇ちよりつ立し羊群馳かける。その海には青く装よそおえる鰯も泳おほいぎ大なる鯨も浮うかぶ。いみじくも造られたる天地よ、自然よ。どうです諸君ご異議がありますか。」

式場はしいんとして返事がありませんでした。博士は実に得意

になつてかかとで一つのびあがり手で円くぐるつと環を描きました。

「その中の出来事はみな神の摂理である。総ては総てはみこころである。誠にまことかしこ畏き極みである。主の恵み讃うべく主のみこころは測るべからざる哉。かなわれらこの美しき世界の中にパンを食み羊毛と麻あさと木綿とを着、セルリイターニップと蕪菁とを食み又豚ぶたと鮭さけとをたべる。すべてこれ摂理である。み恵みである。善である。どうです諸君。ご異議がありますか。」

博士は今度は少し心配そうに顔色を悪くしてそつと式場を見まわしました。それから、まるで脱兎だつとのような勢で結論にはいりました。

「私はシカゴ畜産組合の顧問でも何でも無い。ただ神の正義を伝えんが為に茲（ここ）に来た。諸君、諸君は神を信ずる。何が故（ゆえ）に神に従わないか。何故に神の恩恵（おんけい）を拒む（こぼ）のであるか。速（すみやか）にこれを悔悟（かいご）して従順なる神の僕（しもべ）となれ。」

博士は最後に大咆哮を一つやって電光のように自分の席（もと）に戻りそこから横目でじつと式場を見まわしました。拍手が起りました。と同時に大笑いも起りました。というのは私たちは式場の神聖を乱すまいと思つてできるだけこらえていたのですがあんまり博士の議論が面白いのでしまいにはとうとうこらえ切れなくなつたのでした。一番前列に居た小さな信者が立ちあがつて祭司次長に何か云（い）いました。次長は大きくうなずきました。

その人はこの村の小学校の先生なようでした。落ちついて祭壇さいだんに立ってそれから町寧ていねいにさっきのマットン博士に会釈えしやくしました。博士はたしかに青くなつてぶるぶる顫ふるえていました。その信者は次に式場全体に挨拶あいさつしました。拍手はくしゅは強く起りました。その人は少しニュウファウンドのなまりを入れて演説をはじめました。

「異教論難に対し私はプログラムに許されてある通り宗教演説を以て答えようと思うのであります。」

ヘルシウム・マットン博士の御所説は実に三段論法の典型であります。まず博士の神学を挙げて二度これを満場に承認せしめこれを以て大前提とし次にビジテリアンがこれに背そむくことを述べて

小前提とし最後にビジテリアンが故に神に背くことを断定し菜食なる小善の故に神に背くの大罪を犯すことを暗示致されました。実に簡潔明瞭なる所論であります。

然るにこの典型的論理に私が多少疑問あることは最遺憾に存ずる次第であります。

第一に博士の一九二〇年代に適するようにクリスト教旧神学中より抽出されました簡潔の神学はただこの語だけで見ますればこれいかにも適当であります。今日此処に集まりました人人はあなたがちクリスト教徒ばかりではありません、されどいずれの宗教に於てもこれを云わんと欲するものであります。但しこれ敢て博士の神学でもありません。これ最普通のことでもあります。

第二にその神学の解釈に至つては私の最疑義を有する所であり
 ます。殊にも摂理ことの解釈に至つては到底とうてい博士は信者とは云われ
 ませぬ。摂理なる観念は敢てキリスト教に限らずこれ一般宗教通
 有のものであります。その解釈を誤ること我が神学博士のごとき
 もの孰れいずの宗教に於ても又実に多々あるのであります。今一度博
 士の所説を繰り返すならば私は筆記して置きました。が、読んで見
 ます、その中の出来事はみな神の摂理である。総ては総てはみこ
 ころである。誠に畏かしこき極きわみである。主の恵み讃うべく主のみこ
 ろは測るべからざる哉かな、すべてこれ摂理である。み恵みである。
 善である。と斯こうです。これを更に約言やくごんするときは斯うなります。
 現象は総て神の摂理中なるが故に善なりと、まあよろしいようで

ありますが又ごくあぶないのであります。ここの善というのは神より見たる善であります。絶対善であります。それをもし私たちから見た善と解釈するとき始めて先刻のマットン博士の所説を生じます。現象はみな善である、私が牛を食う、摂理で善である、私が怒つてマットン博士をなぐる、摂理で善である、なぜならこれは現象で摂理の中のでき事で神のみ旨は測るべからざる哉と、斯うなる、私が諸君にピストルを向けて諸君の帰国の旅費をみんな巻きあげる、大へんよろしい、私が誰かにおどされて旅費を巻きあげ損ねそうになる、一発やる、その人が死ぬ、摂理で善である。もつと面白いのはここにビジテリアンという一類が動物をたべないと云っている。神の摂理である善である然るに何故にマツ

トン博士は東洋流に形容するならば怒髪天を衝いてこれを駁撃ばくげきするか。ここに至つて畢ひつきよう竟マットン博士の所説は自家撞着じかどうちやくに終るものなることを示す。この結論は実にいい語ことばであります。

これ然しながら不肖ふしょう私の語ではない、実にシカゴ畜産組合の肉食宣伝のパンフレット中に今朝拝見したものである。終に臨んで勇敢ゆうかんなるマットン博士に深甚しんじんなる敬意を寄せます。」

拍手は天幕テントをひるがえしそうでありました。

「大分露骨ろこつですね、あんまり教育家らしくもないビジテリアンですね。」と陳さんが大笑いをしながら申しました。

ところがその拍手のまだ鳴りやまないうちにもう異教徒席の中から瘠やせぎすの神経質らしい人が祭壇にかけ上りました。その人

は手をぶるぶる顫わせ眼もひきつっているように見えました。それでもコップの水を呑んで少し落ち着いたらしく一足進んで演説をはじめました。

「マットン博士の神学はクリスト教神学である。且つその摂理の解釈に於て少しく遺憾の点のあつたことは全く前論士の如くである。然しながら茲こゝに集られたビジテリアン諸氏中約一割の仏教徒のあることを私は知っている。私も又実は仏教徒である。クリスト教国に生れて仏教を信ずる所以ゆゑんはどうしても仏教が深遠だからである。自分は阿弥陀あみだぶつの化身けしん親鸞しんらん僧そうじ正しょうによつて啓示けいじされた本願寺派の信徒である。則ち私すなわは一仏教徒として我が同朋どうぼうたるビジテリアンの仏教徒諸氏に一語を寄せたい。この世界は苦で

ある、この世界に行わるるものにして一として苦ならざるものな
 い、ここはこれみな矛盾むじゆんである。みな罪惡である。吾等われらの心象
 中微塵みじんばかりも善の痕跡こんせきを発見することができない。この世界
 に行わるる吾等の善なるものは畢ひつきよう竟根のない木である。吾等
 の感ずる正義なるものは結局自分に氣持がいいというだけの事であ
 る。これは斯こうでなければいけないとかこれは斯うなればよろ
 しいとかみんなそんなものは何にもならない。動物がかあいそう
 だから喰べないなんといふことは吾等には云はえたことではない。
 実にそれどころではないのである。ただ遙はるかにかの西方の覚者救
 濟者阿弥陀仏に歸してこの矛盾の世界を離はなるべきである。それ然
 る後に於て菜食主義もよろしいのである。この事柄ことがらは敢て議論

ではない、吾等の大教師にして仏の化身たる親鸞僧正がまのあたり肉食を行い爾来わが本願寺は代々これを行っている。日本信者の形容を以てすれば一つの壺の水を他の一つの壺に移すが如くに肉食を継承しているのである。次にまた仏教の創設者釈迦牟尼を見よ。釈迦は出離の道を求めんが為に檀特山と名くる林中に於て六年精進苦行した。一日米の実一粒亜麻の実一粒を食したのである。されども遂にその苦行の無益を悟り山を下りて川に身を洗い村女の捧げたるクリームをとりて食し遂に法悦を得たのである。今日牛乳や鶏卵チーズバターをさえとらざるビジテリアンがある。これらは若し仏教徒ならば論を俟たず、仏教徒ならざるも又大に参考に資すべきである。更に釈迦は集り

来れる^{きた}多数の信者に対して決して決して肉食を禁じなかつた。五種^{じょう}淨^{じよう}肉^{にく}となづけてあまり残忍なる行為^{こうい}によらずして得たる動物の肉はこれを食することを許したのである。今日のビジテリアンは実に印度^{インド}の古の聖者たちよりも食物のある点^{ついで}に就て嚴格である。されどこれ畢竟不具である^{きけい}畸形である、食物のみ嚴格なるも釈迦の制定したる他の律法に一も従っていない。特にビジテリアン諸氏よくこれを銘記^{めいき}せよ。釈迦はその晩年、その思想いよいよ円熟するに從て全く菜食主義者ではなかつたようである。見よ、釈迦は最後に鍛^{たんこう}工チエンダというものの捧げたる食物を受けた。その食物は豚肉を主としている、釈迦はこの豚肉の為に^{あらかじ}予め害したる胃腸を全く救うべからざるものにしたらしい。その為にとうとう

八十一歳にしてクシナガラという処に寂滅じやくめつしたのである。仏教徒諸君、釈迦を見ならえ、釈迦の行為こういを模範もはんとせよ。釈迦の相似形となれ、釈迦の諸徳をみなその二万分一、五万分一、或は二あるい十万分一の縮尺スケールに於てこれを習修せよ。然る後に菜食主義もよろしかろう。諸君の如き畸形ごと きけいの信者は恐らく地下の釈迦も迷惑めいわくであろう。」

拍手はテントもひるがえるばかりでした。

私はこの時あんまりひどい今の語ことばに頭がフラツとしました。そしてまるでよろよろ出て行きました。

何を云うんだったと思つたときはもう演壇に立つてみんなを見下していました。

陳氏が一番向うでしきりに拍手していました。みんなはまるで野原の花のように見えたのです。私は云いました。

「前論士は仏教徒として菜食主義を否定し肉食論を唱えたのでありますいかながが遺憾またけいけん乍ら私は又敬またけいけん虔なる釈尊の弟子でしとして前論士の所説の誤ごびゆう謬を指摘せざるを得ないのであります。先まず予ここめ茲で述べなければならぬことは前論士は要するに仏教特に腐敗ふはいせる日本教権に対して一種骨董こつとう的好奇心を有するだけで決して仏弟子でもなく仏教徒でもないということでありませう。これその演説中あまたによらいしようへんち数多如来正徧知ちんに対してあるべからざる言辭を弄ろうしたるによつて明らかである。特にその最後の言を見よ、地下の釈迦も定めし迷惑であろうと、これ何たる言であるか、何なんびと人か如来を信ず

るものにしてこれを地下にありというものありや、我等は決して
斯かくごとの如き仏弟子の外皮かぶを被り貢高ぐこうじやきよく邪曲の内心を有する悪魔あくまの
使徒を許すことはできないのである。見よ、彼は自らの芥子けしの種
子ほどの智識もつを以てかの無上土を測ろうとする、その論を更に今
私は繰り返すだも恥はずる処であるが実証の為にこれを指摘してきするな
らば彼は斯う云っている。クリスト教国に生れて仏教を信ずる所ゆ
以えんはどうしても仏教が深遠だからであると。クリスト教信者諸氏、
処かを換えて次の如き命題を諸氏は許容するか、仏教国に生れてク
リスト教を信ずる所以はどうしてもクリスト教が深遠だからであ
ると。諸君はその輕薄けいはくに不快を禁じ得ないだろう。私から云う
ならば前論士の如きにいずれの教理が深遠なるや見当も何もつく

ものではないのである。次に前論士は吾等われらの世界に於ける善について述べられた。この世界に行わるる吾等の善なるものは畢ひつきよ竟う根のない木であると、これは恐おそらくは如来のみ力を受けずして善はあることないという意味であろう私もそう信ずる。その次にこれは斯うなればよろしいとかこれはこうでなければいけないとかそんなものは何にもならない、とこれも私は如来のみ旨によらずして我等のみの計らいにてはそうであると思う。前論士も又その意味で云われたようである。但しただ速すみかにかの西方の覺者に歸せよと、これは仏教の中に於て色々諍そうろん論のある処である。今はこれを避ける。ただ我等仏教徒はまず釈尊の所説の記録仏經に従うということだけを覺悟かくごしよう。仏經に従うならば五種淨肉

は修業未熟のものにのみ許されたこと 楞迦經りやうかきやうに明かである。
 これとても最後 涅槃經ねはんぎやう中には今より以後 汝等なんじら 仏弟子の肉を食
 うことを許されずとされている。その五種淨肉とても前論士の云
 われた如き余り殘忍なる行為こういによらずしてというごとき簡單なる
 ものではない。仏教中の様々の食制に関する考は他に誰かたれ述べら
 れる予定があつたようであるから茲ここにはこれを略する。但し最後
 に前論士は釈尊の終りに受けられた供養くやうが豚肉であるという、何
 という間違まちがいであるか豚肉ではない蕈きのこの一種である。サンスクリ
 ヲトの両音相類似する所から輕卒けいそつにもあのような誤りを見たの
 である。茲おいに於てか私は前論士の結論を以て前論士に酬こたえる。仏
 教徒諸君、釈迦を見ならえ、釈迦の相似形となれ、釈迦の諸徳を

みなその二万分一、五万分一、或は二十万分一の縮尺スケールに於てこれを習修せよ。ああこの語氣の輕薄けいはくなることよ。私はこれを自ら言いいて更さらにそれを口にした事を恥はじる。

私は次に宗教の精神より肉食しないことの当然を論じようと思う。キリスト教の精神は一言にして云わば神の愛であろう。神天地をつくり給たまうたとのつくるといふような語ことばは要するにわれわれに対する一つの譬諭ひゆである、表現である。マットン博士のように誤せつりつた摂理論を出さなくてもよろしい。畢竟は愛である。あらゆる生物に対する愛である。どうしてそれを殺して食くべることが当然のことであろう。

仏教の精神によるならば慈悲じひである、如来の慈悲である完全な

智慧ちえを具そなへたる愛である、仏教の出発点いっさいは一切の生物がこの
 ように苦しくこのようになさしい我等とこれら一切の生物と諸もろと
 共もにこの苦の状態を離れたいと斯こう云うのである。その生物と
 は何であるか、そのことあまりに深刻にして諸氏の胸を傷つける
 であろうがこれ真理であるから避け得ない、率そつちよく直ちよくに述べよう
 と思う。総すべての生物はみな無量の劫カルパの昔から流転るてんに流転を重ねて
 来た。流転の階段は大きく分けて九つある。われらはまのあたり
 その二つを見る。一つのたましいはある時は人を感じずる。ある時
 は畜ちくしやう生すなわ、則ち我等が呼ぶ所の動物中に生れる。ある時は天上
 にも生れる。その間にはいろいろの他のたましいと近づいたり離
 れたりする。則ち友人や恋こいびと人や兄弟や親子やである。それらが

互たがいにはなれ又生を隔へだててはもうお互に見知らない。無限の間には無限の組合せが可能である。だから我々のまわりの生物はみな永い間の親子兄弟である。異教の諸氏はこの考をあまり真剣で恐ろしいと思うだろう。恐ろしいまでこの世界は真剣な世界なのだ。私はこれだけを述べようと思ったのである。―

私は会えしやく釈だんして壇はくしゆを下り拍手はくしゆもかなり起りました。異教徒席の神学博士たちももうこれ以上論じたいような景色も見えませんでした。けれども異教徒席の中にだつてみんな神学博士ばかりではありませんでした。丁度ヘツケルのような風をした眉間みけんに大きな傷あとのある人が俄にわかに椅子いすを立ちました。私は今朝のパンフレットから考えてきつとあれは動物学者だろうと考えたのです。

その人はまるで顔をまっ赤にしてせかせかと祭壇にのぼりました。我々は寛大かんだいに拍手しました。その人はぶるぶるふるふる手でコップに水をついでのみました。コップの外へも水がすこしこぼれました。そのふるえようがあんまりひどいので私は少し神経病うたがいの疑うたがいさえもちました。ところが水をのむとその人は俄かにピタッと落ち着きました。それからごくしずかに何か云いそうに口をしましたがその語ことばはなかなか出て来ませんでした。みんなはしんとまりました。その人は突然とつぜん爆発ばくはつするように叫さけびました。二三度どもりました。

「な、な、な何が故ゆえに、何が故ゆえに、君たちはど、ど、動物を食わないと云いながら、ひ、ひ、ひ、ひ、羊、羊の毛のシャツポをかぶる

か。」その人は興奮の為にガタガタふるえてそれからやけに水のみました。さあ大へんです。テントの中は割けるばかりの笑い声です。

陳氏ももう手を叩いてころげまわってから云いました。

「まるでジョン・ヒルガードそっくりだ。」

「ジョン・ヒルガードって何です。」私は訊ねました。

「喜劇役者ですよ。ニュウヨーク座の。けれどもヒルガードには眉間にあんな傷痕きずあとがありません。」

「なるほど。」

そのあとはもう異教徒席も異派席もしいんとしてしまつて誰も演壇に立つものがありませんでした。祭司次長がしばらく式場を

見まわして今のぎわめきが静まってから落ちついて異教徒席へ行ききました。ほかにお立ちの方はありませんかとも云ったようでしたが誰もしんとして答えるものがありませんでしたので次長はちよつと一 寸礼をして引き下がりました。

「すっかり参ったようですね。」陳氏が私に云いました。私も實際嬉しかつたのです。あんなに頑強に見えたシカゴ軍があまりもろく粉砕されたからです。斯う云つてはなんだか野球のようですが全くそうでした。そこで電鈴がずいぶん永く鳴りましました。そのすきとおつた音に私の興奮した心はもう一ぺん透明なニューファウンドランドの九月というような気分に戻りました。みんなもそうらしかったのです。陳氏は

「私はもう一発やって来ますから。」と云いながら立ちあがって出て行きました。

その時です。神学博士がまたしおしおと壇に立ちました。そしてしょんぼりと礼をして云つたのです。

「諸君、今日私は神の思おほしめし召めのいよいよ大きく深いことを知りました。はじめ私は混食のキリスト信者としてこの式場に臨のぞんだのでありましたが今や神は私に敬けいけん虔なるビジテリアンの信者たることを命じたまいました。ねがわくは先輩諸氏愚昧ぐまい小生の如ごときをも清き諸氏の集会の中に諸氏の同朋どうぼうとして許したまえ。」

そして壇を下つて頭を垂れて立ちました。

祭司次長がすぐ進んで握あくしゅ手てしました。みんなは歓呼の声をあ

げ熱心に拍手してこの新らしい信者を迎えたのです。

すると異教席はもうめちやめちやでした。まつ黒になつて一ぺんに立ちあがり一ぺんに壇にのぼつて

「悔くい改めます。許して下さい。私どももみんなビジテリアンになります。」と声をそろえて云つたのです。

祭司次長がすぐ進んで一人ずつ握あく手しゅしました。そして一人ずつ壇を下つてこつちの椅子に座すわりました。歓呼と拍手とで一い杯ぱいでした。椅子が丁度うまい工合ぐあいにあつたのです。何だかあんまりみんなうまい工合でした。そのとき外ではどうんと又一発陳氏ののろしがあがりました。その陳氏がもう入つて来て私に軽く会釈してまだ立ちながら向うを見て云いました。

「おやおやみんな改宗しましたね、あんまりあつけない、おや椅子も丁度いい、はてな一つあいてる、そうだ、さつきのヒルガードに似た人だけまだ頑張がんばってる。」

なるほどさつきのおしまいの喜劇役者に肖にた人はたった一人異教徒席に座つて腕うでを組んだり髪を搔かきむしつたりいかにも仰ぎようさ山んなのでみんなはどうとうひどく笑いました。

「あの男の煩はんもん悶もんなら一体何だかわからないですな。」陳氏が云いました。

ところがとうとうその人は立ちあがりました。そして壇にのぼりました。

「諸君、私は誤っていた。私は迷っていたのです。私は今日から

ビジテリアンになります。いや私は前からビジテリアンだったよ
うな気がします。どうもさつきまちがえて異教徒席に座りそのた
めにあんな反対演説をしたらしいのです。諸君許したまえ。且かつ
私考えるに本日異教徒席に座った方はみんな私のように席をちが
えたのだらうと思う。どうもそうらしい。その証しょうこ拠こには今はみ
んな信者席に座っている。どうです、前異教徒諸氏しそうでしょう
。」「

私の愕おどろいたことは神学博士をはじめみんな一ぺんに立ちあがっ
て

「そうです。」と答えたことです。

「そうでしよう。して見ると私はいよいよ本心に立ち帰らなけれ

ばならない。私は或は^{あるい}ご承知でしょう、ニューヨウク座のヒルガードです。今日は私はこのお祭を賑^{にぎ}やかにする為^{ため}に祭司次長から頼^{たの}まれて一つしばいをやったのです。このわれわれのやった大しばいについて不愉快^{ふゆかい}なお方はどうか祭司次長にその攻撃^{こうげき}の矢を向けて下さい。私はごく気の弱い一信者ですから。」

ヒルガードは一礼して脱兎^{だつと}のように壇を下りただ一つあいた席にぴたつと座つてしまいました。

「やられたな、すっかりやられた。」陳氏は笑いころげ哄^{こうしやう}笑^{わら}歡呼拍手は祭場も破れるばかりでした。けれども私はあんまりこのあつけなさにぼんやりしてしまいました。あんまりぼんやりしましたので愉快的ビジテリアン大祭の幻^{げん}想^{そう}はもうこわれま

どうかあとの所はみなさんで活動写真のおしまいのありふれた舞^ぶ踏^とか何かを使^とうてご勝手にご完成をねがうしだいであります。

青空文庫情報

底本：「新編 銀河鉄道の夜」新潮文庫、新潮社

1989（平成元）年6月15日発行

1994（平成6）年6月5日13刷

入力：土屋隆

校正：高柳典子

2007年1月6日

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>)

で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

ビジテリアン大祭

宮沢賢治

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>